

令和8年度
小石川淑徳学園中学校
第1回一般入試
試験問題

算 数

(50分・100点)

2月1日(日) 午前の部

【注意事項】

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かないでください。
2. 問題は①～⑤まであります。ページの抜けや、印刷がかすれて見えにくいところがある場合は、手をあげて申し出てください。
3. 問題冊子・解答用紙に受験番号・氏名を必ず記入してください。
4. 解答は、解答用紙の指定された場所に記入してください。
5. 試験終了の合図まで静かに着席しててください。
6. すべて、監督の先生の指示にしたがってください。
7. 問題冊子・解答用紙ともに回収します。

受験番号		氏名	
------	--	----	--

□1 次の計算をしなさい。

(1) $17 - 12 \div 4$

(2) $6 \times (9 - 2) - 3$

(3) $\frac{3}{7} - \frac{1}{4}$

(4) $\frac{5}{18} \times \frac{3}{10}$

(5) $4.77 + 1.9$

(6) $1.5 \div \frac{5}{7} \div 0.3$

2 次の問いに答えなさい。

(1) 420 m の道のりを分速 60 m で進むとき何分かかかるか答えなさい。

(2) 32 と 48 の最大公約数を答えなさい。

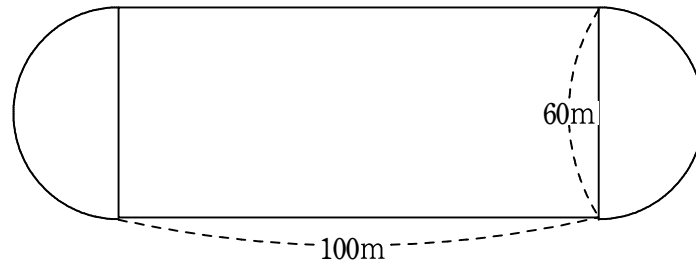
(3) 8 時間 48 分は何分か答えなさい。

(4) 120 g の 7 割は何 g か答えなさい。

(5) 折り紙を姉と妹で 6 : 5 になるように分ける。
姉が 42 枚のとき、妹の枚数を答えなさい。

(6) A さん、B さん、C さん、D さんが 1 列に並ぶとき、
並び方は何通りあるか答えなさい。

- 3 直線部分の長さが 100 m，半円部分の直径の長さが 60 m のグラウンドがある。
このとき，次の問いに答えなさい。ただし，円周率を 3.14 とする。

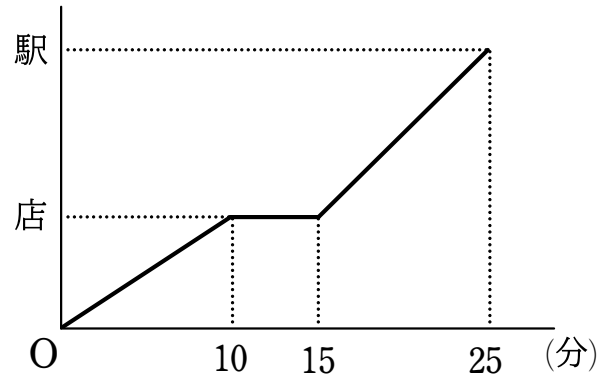


- (1) このグラウンドの周りの長さを求めなさい。

- (2) このグラウンドの面積を求めなさい。

4 さくらさんは家から 2000 m 離れた駅に向かって分速 80 m で歩き始めました。途中の店で買い物をしてから、また駅に向かって歩きました。次の図はそのときのさくらさんの動きを表したものです。このとき、次の問いに答えなさい

(1) 店で買い物をしていた時間を答えなさい。



(2) 家から店までの道のりを求めなさい。

(3) 店を出てから駅までの歩く速さを求めなさい。

1	(1)	(2)	(3)
	(4)	(5)	(6)

2	(1)	(2)	(3)
	分		分
	(4)	(5)	(6)
	g	枚	通り

3 ※答えのみでもよい

(1) (式または考え方)	答	m
(2) (式または考え方)	答	m ²

4 ※答えのみでもよい

(1) (式または考え方)	答	分間
(2) (式または考え方)	答	m
(3) (式または考え方)	答	分速 m

5 ※答えのみでもよい

(1) (式または考え方)	答
(2) (式または考え方)	答 番目
(3) (式または考え方)	答

受験 番号		氏 名		評 点	
----------	--	--------	--	--------	--

1	(1) 14	(2) 39	(3) $\frac{5}{28}$
	(4) $\frac{1}{12}$	(5) 6.67	(6) 7

2	(1) 7 分	(2) 16	(3) 528 分
	(4) 84 g	(5) 35 枚	(6) 24 通り

3 ※答えのみでもよい

(1) (式または考え方)	答 388.4 m
(2) (式または考え方)	答 8826 m ²

4 ※答えのみでもよい

(1) (式または考え方)	答 5 分間
(2) (式または考え方)	答 800 m
(3) (式または考え方)	答 分速 120 m

5 ※答えのみでもよい

(1) (式または考え方)	答 5
(2) (式または考え方)	答 26 番目
(3) (式または考え方)	答 190

受験 番号		氏 名		評 点	
----------	--	--------	--	--------	--

令和8年度
小石川淑徳学園中学校
第1回一般入試
試験問題

国語

(50分・100点)

2月1日(日) 午前の部

【注意事項】

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かないでください。
2. 問題は【1】～【4】まであります。ページの抜けや、印刷がかすれて見えにくいところがある場合は、手をあげて申し出てください。
3. 問題冊子・解答用紙に受験番号・氏名を必ず記入してください。
4. 解答は、解答用紙の指定された場所に記入してください。
5. 試験終了の合図まで静かに着席しててください。
6. すべて、監督の先生の指示にしたがってください。
7. 問題冊子・解答用紙ともに回収します。

受験番号		氏名	
------	--	----	--

【1】 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「ゴミ箱ロボット」を広場に置いたときに、初めに思ったのは、「ゴミって、^aイガイにも落ちていない！」ということでした。公共施設では、いつも掃除が行き届いており、ポイ捨てしにくい場所なのかもしれません。あたりをウロウロしながら、ゴミを探しまわるのは、とても大変なことに思えるのです。

「自分の力だけで、なんとかしよう」との^b心意気は評価できるけれども、（あ）弱いところが目立ってしまうのです。一つでもつまずいたら、そこに立ち往生してしまふ。ロボットなのでまだ心が折れてしまうことはないにせよ、¹想定外のことに対しては^{※1}脆弱であり、柔軟性に欠けるようなので

す。

こんなときは、どうしたらいいのでしょうか。多くの場合、もともともっと技術を磨かなければと工夫を重ねることでしょう。（い）、「ロボット

^{※2}アームの先端をもっと柔らかな指先にしてみよう」、「アームの自由度を高めるために、その回転軸の数を増やしてみよう」と、その機能や能力の「隙間」をなんとか埋めようと工夫してみる。「ひとりでできるもん！」を究めようというわけです。

その能力や機能がまだ十分でないなら、新たな機能を追加してあげればいい。これは「足し算のデザイン」と呼ばれるもので、ある意味ではまっとうな^{※3}アプローチなのです。

ただ、どうでしょうか。たまたまですが、²「ゴミ箱ロボット」と子どもたちどのかかわりを目にしてみると、すこし見方も変わってきます。「ゴミを拾うのが苦手なら、そんなことは子どもたちに手伝ってもらえばいいじゃないか！」と。「自分の力だけでなんとか」と自らの中に³トじるよりも、どこか

3 「しなやかな強さ」のようなものを感じるのです。

これはどうしてなのでしょう。一つには、キカイキカイしたものにくらべて、子どもたちの能力は圧倒的に高いということもあるでしょう。ペットボトルを拾うのでも、カードのような薄いものを摘みあげるのでも、彼らの柔らかな手にはかきません。「本当によくできているなあ！」と思います。ちよつと狭いところにあるゴミも、^dキヨウに身体を小さく屈めながら、腕を伸ばすことが出来ます。^e無造作に捨てられたゴミなのか、誰かの大切な落とし物なのか、そんな価値^fハンダンもなんなく行えることでしょう。

ただ、ここですこし立ち止まって考えたいのは、「こうした子どもたちの⁴（強み）は、〈ゴミ箱ロボット〉とのかかわりのなかで引き出されたもの、⁴顕在化したものではないか」ということです。

「この手の柔らかさって、そんなにすごいことだったの？」と、ふだんは気にも留めていなかったことでしょう。「こんなことで貢献できるのなら、いつでもどうぞ！」というわけです。くわえて、〈ゴミ箱ロボット〉の思いを汲んで、みんながゴミを拾い集めたり、その進行の妨げにならないようにと、^シヨウガイとなるものを先んじてどかしてあげる。〈ゴミ箱ロボット〉の〈弱さ〉は、子どもたちの〈強み〉だけではなく、彼らのやさしさや工夫なども引き出していったのです。

多くの子どもたちが入れ替わり立ち代わり〈ゴミ箱ロボット〉とかわわっているところも見逃せません。一人の子どもの気まぐれに頼っている心もとないのですが、いろいろな子どもたちがときどき参加してくれる。その中で、お互いの〈弱さ〉を補いあいながら、それぞれの〈強み〉を引き出しあっている。〈しなやかな強さ〉というのは、こういう関係の中から生み出されるようです。先の「ひとりでできるもん！」と強がっているはずでも、実は「とても脆い」ことと対照的に思われるのです。

もう一つ、とても興味深いのは、子どもたちに囲まれているとき、〈ゴミ箱ロボット〉の〈弱さ〉や〈不完全なところ〉は、そのかわりの中に消えてしまっていることです。「自分ではゴミを拾えない」とか、「ゴミの分別は苦手!」、「そんなに「ケイカイに動きまわれない」など、かわりの中にいると、あまり気にならないものです。

「そのかわりの中に、上手に隠れてしまった……」と捉えたらいいのか、それとも「そんな弱さは、初めからなかったのだ!」と考えたらいいのか。ロボットの能力や機能を評価するときには、とかくロボットの範囲内で考えてきたと思うのです。このことは、「テストを受けるときには、誰の手も借りてはいけませんよ」というのと、同じことなのかもしれません。

(う)、子どもたちを含めた全体のシステムとして考えてみると、〈ゴミ箱ロボット〉たちは、「ゴミを拾い集める」ことも、「ゴミを分別してしまふ」ことも、「ぶつからないで歩く」ことも出来ているのです。あえて一人だけにしておく必要は、どこにもないと思うのです。

こうしていつの間にか、子どもたちに囲まれた〈ゴミ箱ロボット〉の姿に馴れ親しんでしまうと、ポツンとして黙々とゴミを拾い集めようとする、これまでの「セイトウ派」のロボットの姿というのは、どこか寂しげであり、なにか無理をしているように思えます。「ひとりでできるもん!」と強がっているけれど、そんなにゴミを積みあげるのに「A」しているなら、「まわりの子どもたちに手伝ってもらってはどうか?」と、思わず声をかけたくなるのです。

〈ゴミ箱ロボット〉に限らず、多くのロボットにも(そして、わたしたちにも)苦手なところ、不完全なところはたくさんあります。「ひとりできるもん!」と強がるのもいいけれど、自らの「弱いところ」を受け入れ、まわりにそつと委ねてみたらどうか……。〈ゴミ箱ロボット〉は、そんなこと

をさりげなく教えてくれたわけです。

「ほんのすこし人から手伝ってもらおうロボットって、いいかも!」

「すこしだけ、手のかかるロボット!」

いままでロボットは、とかく「自分の力だけで何とかしなければ……」と拘ってきたのですが、ほんのすこし人の手を借りるだけで「カンタンに出来てしまうことはたくさんあります。その「不完全なところ」は、まわりの人の「強み」を引き出すのです。反対に、手助けしている本人だって、いろいろ苦手なこともあり、ときには助けってもらうこともあるでしょう。人とロボットとがお互いの「弱さ」を補いつつ、その「強み」を引き出しあうのはどうか。(え)、〈ゴミ箱ロボット〉をきっかけに、人との間でゆるく依存しあうような〈弱いロボット〉という考え方が生まれてきました。

(岡田美智男『〈弱いロボット〉から考える―人・社会・生きること』)

- ※1 脆弱……こわれやすく、まったくとたよりない。
- ※2 アーム……本体からうでのような形でつき出た部分。
- ※3 アプローチ……対象や目標に近づく(迫る)こと。接近。
- ※4 顕在……はっきりと形にあらわれて、存在すること。
- ※5 委ねて……すつかりまかせ。相手の思う通りにさせる。

問一 ――線部 a ~ j の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直さない。

問二 (あ) (い) (え) に当てはまる言葉を、次のア～エからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ア こうして イ なぜだか ウ しかし エ たとえば

問三 — 線1 「想定外のことに対しては脆弱であり、柔軟性に欠けるようなのです」とありますが、さらに能力や機能を増やすことは何と呼ばれていますか。文章中から八字でぬき出しなさい。

問四 — 線2 「〈ゴミ箱ロボット〉と子どもたちのかかわり」を通して、何が何を引き出しましたか。説明している部分を文章中から五十三字で探し、初めと終わりの五字を答えなさい。(句読点やかっこなども字数に含む。)

問五 — 線3 「『しなやかな強さ』のようなものを感じる」とありますが、筆者が考える「しなやかな強さ」とはどのような強さですか。文章中の言葉を使って、三十五字以内で答えなさい。

問六 — 線4 「〈強み〉」とありますが、次の1・2に適切なものを次のア～エからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- 1 〈ゴミ箱ロボット〉の強み

- 2 子どもたちの強み

ア ささまざまな種類のものの分別が苦手である。
イ 作業に失敗し続けてもやる気がなくならない。

ウ 単純作業を行うとだんだん飽きてしまう。
エ 薄いものを摘みあげ狭いところにあるものもとれる。

問七 A に当てはまる四字熟語として適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 臨機応変
イ 自画自賛
ウ 自業自得
エ 四苦八苦

問八 〈ゴミ箱ロボット〉を作ったことによってどんな考え方ができましたか。その考え方を文章中から三十字でぬき出しなさい。(句読点やかっこなども字数に含む。)

【2】 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

中学校二年生の佐々木丈は夏休みの初日に、社会の宿題であるグループ研究のためにグループメンバーである田中紫月と王子軒と一緒に話し合いをすることになった。紫月の姉である茜のスタジオ『トウモロローテクノロジー研究所』が集合場所になった。

「あ、^{※1}たつくん、わるいけどあそこのゴミ、分別しておいてくれる？」

茜さんは、作業机のはしに山積みになっているものを指さした。

「はいはい。あれ、茜、この布は？」

たつくんが、^aオリたたんである布を指さしている。

「それ、かあさんがどこからかもらってきた古いカーテンなの。ここで使えて、持ってきてくれたんだけど、厚ぼったくて風が通らないし^b、ハデすぎるし、いらぬいなあと思って。でも捨てるのはもったいないし」

うんうんうん、と丈は心の中でうなづく。

真っ赤な^{※2}ビロードのカーテンなんか、この渋い空間にあうはずがない。

けど、ゴミというほどひどくもない。

「じゃ、ヨシにあげようか。あいつ、使える素材を集めるのが大変っていつてたから」

「あーそつか。トートバッグによさげだね。うん、ヨシがよろこぶなら、ぜひそうして！」

「オッケー」

仕分けをしているたつくんの^c手元を見ながら、丈はカーテンをトートバッグに？と、疑問に思った。

「茜さん、それって、リサイクルってことっすか？」

「あ、いや、¹アップサイクル」

「アップサイクル？」

「うん、モノを……あ、その前に」

茜さんは麦茶を飲みほすと、丈や王ちゃん、そして紫月の目を順番に見た。

「ゴミ問題がものすごく^dシニコクなのは知ってるよね？」

「知ってるよ、姉ちゃん。海がプラスチックだらけでさ、よくウミガメとか

クジラのおなかからプラスチックがいっぱい見つかるもんね」

「そう。ゴミ問題はプラスチックだけじゃないの。今ではプラスチックを食べる、というか分解する^{※3}酵素が発明されて実用化されたし、そもそも

^{※4}生分解性の安全な素材が増えたから、前よりはマシだけどね」

三人の中学生がいつせいにうなづく。

「とにかく、リサイクルできない素材もあるし、燃やすと有害だし、燃やせない素材もあるし、捨てる場所はないし、ほんとうに大変な^eシタイなのよ」

三人はまた同時にうなづく。

「だから、なるべくゴミを減らさないといけないの。できればゼロにしたいくらい。基本はリデュース、リサイクル、リユース。²この三つは、学校でも習ったかな？」

「はい！」

王ちゃんがすぐに答えた。

「Reduceは、減らすこと。Recycleは、ペットボトルの素材でフリースを作ったり、段ボールから再生紙を作ったりするようなことです。

Reuseは、再使用のことです」

「あたり！ きみ、名前は？」

「王です。王子軒。ジョージと呼んでくださってかまいません」

「王くんね。優秀だねー！」

「ありがとうございます。あの、ジョ……」

王ちゃんの言葉を、えんりよなく紫月がさえぎる。

「姉ちゃん、あたしたちは王ちゃんって呼んでるんだよ」

「そう。じゃ王ちゃんって呼ぶわ。いい名字ね。漢字は王様の王でしよう？」

王ちゃんは、ほおを赤く染めてうなずく。

「そういえば、リデュース、リサイクル、リユースの3R^{スリーアール}っての、オレたちも小学校でならったよな？」

丈に念を押された紫月は、目をきよろつとさせてからうなずいた。

「そういえばそうだった。すっかり忘れてた」

「基本は、そもそも最初からリデュースすることが理想よね。つまりゴミを『減らす』。製品を作る際に、できるだけ使う材料の量を少なくしたり、使用後の廃棄物が最低限ですむようにしたりすることなの。それでも捨てるものが出ちゃったら、なるべく『リユース』つまり再使用。最後には、素材そのものを『リサイクル』、要するに素材自体を原料にもどして再生させる。これが3R」

「姉ちゃんって、先生みたいだね。説明がわかりやすい」

妹の頭をなでながら、茜さんはほほえんだ。

丈はふと、あちこちで見かけた「リサイクルショップ」という「カンバン」^fを思い出した。

「あ、じゃあ、4リサイクルショップっていい方は、まちがいつすか？ほんと
はリユースショップ？」

丈の質問に、あかねさんは大きくうなずく。

「丈くん、いいところに気がついたね。そう、本来なら製品をそのまま『再使用』だから、『リユースショップ』が正解だよ。最近はそのように呼び方にな

ってきたみたいけど」

「姉ちゃん、洋服だと『ヴィンテージ』とか『古着』ともいうよー！」

「そうね。それに美術品で価値の高いものと、『骨董品』^{こっとうひん}になるわね」

「あー、なるほど。本だと『古本』^{こほん}ですね」

王ちゃんが思い出したようにいうと、丈もくわわる。

「車だと『中古車』^{ちゆうこくるま}だな。でもそれが骨董品レベルになると『クラシックカー』になるか。あ、そういえば、中古品って、『セカンドハンド』ともいうか？茜さんはほほえみながら丈にうなずくと、また三人の目を順番に見ながら聞いた。

「それから、3Rのほかに、5ダウンサイクルとアップサイクルというのがあ
るの。さーてと、ダウンサイクルとはなんでしよう？」

「えっと、ダウンだから……」

丈が首をかしげていると、王ちゃんが「ああ」と、口を開いた。

「たとえば、古いタオルをぞうきんにダウングレードして使うことですね？」

「そう、正解！ではアップサイクルとはなにか？」

丈がいち早く人差し指を上げる。

「ダウンの逆で、ぞうきんをタオルにアップグレードする。なわけないか」

みんながクスクス笑った。

「ふふふ。アップサイクルは、捨てられるはずのモノに、デザインや新しい使
い方のアイデアをたして、ちがう使い道のものとしてグレードをアップさ
せて、生まれ変わらせることなの。たとえばさっきの、中古のカーテンを使っ
ておしゃれなトートバッグを作るといふようにね」

A

三人がいつせいに感嘆の声を上げた。

「ヨシっていう大学の友人は、いろんなところから、捨てられちゃう素材をも

らってきたり安く買い上げたりして、おもしろいトートバッグを作って、自分のネットショップで売ってるのよ。アップサイクリング・トートBカンパニーっていうの」

「へー」と丈や紫月が感心している間に、いち早く王ちゃんはタブレットで調べた。

「あ、これですね？」

みんなに見せてくれたのは、その会社のホームページだ。

「ロゴマークがカッコいいな！」

丈が思わずそうさげんだロゴは、UP&Bが円の中で白ぬきになっているマークだ。円の色は黒が多い。商品によっては、茶色か赤だ。

「あー、ピンクのこれかわいい！元ピーチチェアだって。げっ、四千四百円もする」

紫月が指さしたピンク色のバッグをスルーした丈は、その下の段にある、使古しのコーヒードの布袋を使ったトートバッグが目がいった。ロゴマークの黒がかすれていて、ちよつとアンティークなイメージだ。

「へえ、これが廃材利用なんだ。これとか、すごくシブい！」

丈が指さしたバッグを見て、紫月が顔をしかめた。

「あんたの趣味って、じじくさっ」

そういいながら、紫月が画面をどんどんスクロールしているのを、ときどき丈が「ちよつちよつ」とストップさせて、じつくり見る。

「アップサイクルって、おもしろいな。いらなくなったモノを捨てずに、アップグレードして生まれ変わらせるなんて、超いいじゃん。ゴミを減らしてやりカッコいい生活にするなんて、Bってやつ。……あ、そうだ！」

急に丈が手をポン、とウった。

「オレたちのグループ研究のテーマ、アップサイクルってのはどうかな？さ

つき紫月がいった、チイキの役に立つことしたいってのともリンクしそうじゃん？」

王ちゃんと紫月が丈を見て、同時にうなずいた。

「いいですね。社会科学の宿題らしくていいと思います。実践的だし」

「うん、あたしも賛成。それにしよう！」

「よし。じゃ、具体的になにをしようか？」

丈が王ちゃんや紫月の目を見る。

「そりゃ、ここらへんの廃材を使ってなんか作るってことでしょ」

紫月がピースサインをしたが、丈は首をかしげた。

「え、それじゃ、ただの工作みたいじゃんか」

「え、ダメ？」

「うーん。紫月ちゃん、ぼくも丈くん賛成ですね。アップサイクルの『工作』をしてもいいけど、それだけだとつまらないですね。あとがつづかないし」

「王ちゃん、つづかないって、どういう意味？」

「つまり、『はい、工夫しました。おしまい』で、いいですかね？この宿題の目的はなんでしたか？」

王ちゃんが手でなにか四角い箱を作って、展示して見せるジュエスチャーをしながら聞きかえた。ジュエスチャーがハデな王ちゃんを見ているとおもしろい、と丈は思いながら、うなずいた。

「うん、オレも廃材使って工作やおしまいつてのは、ないと思うよ。これ、美術や技術の宿題じゃなくて、社会の宿題なんだからさ」

紫月は「ふうん」とつぶやいた。

「……じゃあ、実際にはなにも作らないで、ただアップサイクルをどうやってまわしていくか、みたいな理屈だけ提出するってこと？」

「理屈というか……理論、セオリーですね」

指摘ししてきされて紫月はムツとした表情でうなづく。

「そう、それ、理論だかセオリーだか。そんな抽象ちゆうしょう的なのだけだと、つまんなくない？」

丈は小さくうなづく。

「まあ、つまらないかもしれないけど、社会の宿題だからなあ。たぶん、現代社会の廃棄物の事情とか、アップサイクルがどういう流れで行われるのかとか、あとはさっきのトートバッグみたいな具体的な例を出して説明する、ということになるのかな」

王ちゃんは無表情のままうなづく。

「そうですね。電話取材してもいいですし。グラフとか表とかたくさん入れて、経済的効果や環境破壊防止への貢献こうけんとか、そういうの数字で表わしましょう。では、さっさと宿題かたづけちゃいましょうか。集中すれば、三日ぐらいで十分でしょう」

ふたりにそういわれて、ますます紫月はふてくされる。

「なにそれ。いや、宿題だって、おもしろいこともできるでしょ。てか、おもしろいことしようよ！やっぱアップサイクルで、実際になにか作ろう！」

熱いまなざしの紫月と男子ふたりの間には、数度の温度差があるようだ。

(佐藤まどか『アップサイクル！ぼくらの明日のために』)

※1 たつくん……茜の彼氏でアシスタント。

※2 ビロード……織物の一種。つやがあつて手ざわりがなめらかな布。

※3 酵素……生物のからだの中で作られて、体内での化学反応を助ける働はたらきをする物質。

※4 生分解性……微生物の働きによって、物質が最終的に水と二酸化炭素などの自然な成分にまで分解され、地球ちきうに還かえっていく性質。

問一 —— 線部 a～j の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

問二 紫月の性格や人柄について適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分の意見があるときは、その内容を通そうと粘ねばる性格。

イ 人が話しているときは、その内容をよく聞く性格。

ウ 周りの空気を読んで、自分が話す内容をよく選ぶ性格。

エ 裏で手を回し、自分の思い通りの内容に運ぼうとする性格。

問三 —— 線1 「アップサイクル」とありますが、どのようなことですか。

文章中から六十八字で探し、初めと終わりの五字を答えなさい。

問四 —— 線2 「この三つ」とありますが、具体的にどうすることと説明して

いますか。この後の茜の発言の言葉を使って、五十字以上六十字以内で答えなさい。

問五 —— 線3 「ほおを赤く染めて」とありますが、その理由について、適

切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 王ちゃんが気になっている茜に、話しかけている途とちゆう中で紫月にえんり

よなくさえぎられて気まぜいから。

イ 王ちゃんが大好きな茜に、呼んでほしい名前を呼んでもらえないので周りの人達の目が気になるから。

ウ 王ちゃんが大人として見てもらいたい茜に、「ちゃん」付けで呼ばれて子ども扱あつかいされ怒りを感じているから。

エ 王ちゃんが恋心を抱いている茜に、名前を聞かれたりほめられたりして嬉しくて照れているから。

問六 — 線4 「リサイクルショップについていい方は、まちがいつすか？」とありますが、その理由について解答らんに合うように文章中から三十三字でぬき出しなさい。

問七 — 線5 「ダウンサイクル」とありますが、どういうことですか。次の文の（ ）に当てはまる言葉を、文章中から二字でぬき出しなさい。

・ダウンサイクルとは、元々の製品から（ ）を下げた使用済み製品や資源を再利用すること。

問八 A に当てはまる文章として適切なものを次のア～エからそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「賛成！」
- イ 「それで？」
- ウ 「なるほどー」
- エ 「了解です」

問九 B に当てはまる四字熟語として適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 賛否両論 さんびりょうろん
- イ 一挙兩得 いつきりょうとく
- ウ 文武兩道 ぶんぶりょうどう
- エ 一口兩舌 いっこうりょうぜつ

問十 — 線6 「よし。じゃ、具体的になにをしようか？」とありますが、話し合いをしている三人の様子をたとえを使って表現している部分を探し、文章中から九字でぬき出しなさい。

【3】 次の1～5の□には、それぞれ漢字一字が入ります。□に入る語を後の語群から選び、四字熟語を完成させなさい。

- 1 □和雷同
- 2 有名無□
- 3 不□実行
- 4 心□一転
- 5 意気□合

- 語群
- ・気
 - ・機
 - ・限
 - ・言
 - ・実
 - ・日
 - ・統
 - ・投
 - ・不
 - ・付
 - ・心
 - ・決

【4】 次の1～5の□には、漢字一字が入ります。当てはまる言葉を入れて、慣用句を完成させなさい。

(問題例) □を決める (正答) 腹

- 1 □の打ち所がない ……欠点が一つもなく、完全である。
- 2 □に泥をぬる ……名譽めいよを傷つけ、はじをかかせる。
- 3 □が高い ……得意である。ほこらしく思う。
- 4 □が減らない ……自分勝手なことを遠慮えんりよなく言う。
- 5 耳が□い ……自分の欠点などを指摘してきされ、聞くのがつらい。

10 10 3 3 3 3 4 3 5 4 2 10 4 3 4 5 3 3 8 10

【4】		【3】		【2】										【1】												
1	1	問十	問九	問八	問七	問六	問五	問四			問三	問二	問一		問八		問七	問六	問五		問四	問三	問二	問一		
非	付	数 度 の 温 度 差 が あ る	イ	ウ	価 値 別 解 (目 的)	『 リ ユ ー ス シ ヨ ッ プ 』 が 正 解 だ か ら 。	本 来 な ら 製 品 を そ の ま ま 『 再 使 用 』 だ か ら 、	エ	料 に 戻 し て 再 生 さ せ る こ と	再 使 用 す る こ と	リ デ ュ ー ス は ゴ ミ を 減 ら す こ と	捨 て ら れ る 『 』 と	ア	f 折 り 看 板 ふ る ほ ん ち ゅう こ 打 っ た 地 域	a 派 手 て も と 深 刻 事 態	ボ ツ ト 〜 と い う 考 え 方	人 と の 間 で ゆ る く 依 存 し あ う よ う な へ 弱 い 口	エ	1 イ エ	補 い 合 っ た り す る 強 さ 。	臨 機 応 変 に 苦 手 な こ と を 手 伝 っ て も ら っ た り	へ ゴ ミ 箱 の ロ ク ザ イ ン て い た	足 し 算 の デ ザ イ ン	あ い エ う ウ え ア	判 断 障 害	意 外 こ こ ろ い き
i 簡 単	d む ぞ う さ																									
		j 簡 単	e む ぞ う さ																							

模範解答

2/1
(日)

受験番号

氏名